

| | | | | | |
|---------|--|-------|----|----------|-------------|
| 授業科目名 | 助産と薬理 <i>Pharmacology for Midwifery</i> | | | 担当教員 | 柳原 延章、吉永 宗義 |
| 開講年次 | 1年後期 | セメスター | 2 | 時間数(単位数) | 15(1) |
| 必修選択 | 専攻領域必修 | 授業形態 | 講義 | 使用教室 | |
| 授業の目的 | 女性のライフステージ、妊娠時における薬物動態の基礎、正常周産期の妊産婦および授乳婦のケア、そして産科救急に必要な薬品の薬理作用の知識を習得する。さらに、受胎調節実地指導に必要なピルを含めた避妊薬の知識を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠週数ごとに、妊婦にかかわる薬物療法の概要を説明することができる 2. 経口避妊薬、ホルモン補充療法の概要を説明することができる 3. 新生児に対する薬物療法の概要を説明することができる | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1回 産科で使用する薬剤について学ぶために、妊娠週数と薬物の影響（高橋浩二郎：九州東邦株式会社） 2回 妊娠期に用いる薬剤（高橋浩二郎：九州東邦株式会社） 3回 妊娠期に用いる薬剤の実例（高橋浩二郎：九州東邦株式会社） 4回 続発性無月経とホルモン治療（柳原） 5回 経口避妊薬、ホルモン補充療法（柳原） 6回 国試問題とまとめ（柳原） 7回 新生児に用いる薬剤（吉永） 8回 授乳に影響を与える薬剤（吉永） | | | | |
| 学習方法 | 授業内容について、講義およびプレゼンテーション、ディスカッションを通じて理解する。いくつかのテーマに関して、事前課題を提示する。その課題レポートおよび、講義を合わせて理解し、考察を行う。 最新の医薬品情報を適宜収集・確認する習慣を身につける。 | | | | |
| オフィスアワー | yanagin@med.uoeh-u.ac.jp、m-yoshinaga@jrckicn.ac.jp、t-kojiro@kitakyu-hp.or.jp まで、アポイントをとってください。 | | | | |
| テキスト | 指定しない、適宜、資料を配布する。 | | | | |
| 参考文献 | <p>松田 静治：妊婦と薬物治療の考え方—投与時の注意と禁忌 全面改訂第2版。東京，ヴァンメディカル，2004.</p> <p>Gerald, G.Briggs, et al.: Drugs in Pregnancy and Lactation: A Reference Guide to Fetal and Neonatal Risk 8thEd.. Lippincott Williams & Wilkins, 8.</p> <p>日本産科婦人科学会・日本女性医学学会：ホルモン補充療法ガイドライン。東京，日本産科婦人科学会，2012.</p> <p>日本産科婦人科学会編：低用量経口避妊薬の使用に関するガイドライン改訂版。日本産科婦人科学会雑誌，58(3)：894-962, 2006.</p> | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(80%)、授業参加度(20%) | | | | |